

富岡駅前の光景＝＝居住制限区域を訪れる＝＝

2014年5月26日

川井康郎

2014年5月24日、地元のグループ（脱原発八千代ネットワーク）でいわき市から北上し、広野、檜葉、富岡と回ってきました。総勢23名の参加で、現地の案内は「原発事故の完全賠償をさせる会（原発事故被害いわき訴訟原告団）」の佐藤三男さんをお願いしました。プラント技術者の会の藤崎さん、川本さんも参加しました。

目にしたのは、3年以上にわたって時間が止まったままの凄まじい光景です。写真は、「居住制限区域（年間20-50mSv）」に属する富岡駅周辺の「今」です。文字通りのゴーストタウンです。付近の空間線量は0.8 - 1.2 μ Sv/h、草むらの上での最大測定値は8.0 μ Sv/hでした。



檜葉町（「避難指示解除準備区域」、年間20mSv以下）に建つ宝鏡寺の早川住職のお話も伺いました。「現在、政府は帰還作業を進めようとしているが、戻る予定のあるのは高齢者のみ。近いうちに町は消滅する」と仰っていました。富岡町など「居住制限区域」、さらに双葉、大熊、浪江町を中心とした「帰宅困難区域（年間50mSv以上、現在も立入り禁止）」に生活が戻ることは最早ないでしょう。これまで、私たちは原発を主に技術的側面より眺めてきましたが、先日の大飯判決文にある「豊かな国土とそこで失った生活の大きさ」を改めて思い知りました。



とにかく衝撃的な現地訪問でした。今は車で「帰宅困難区域」の境界線まで行くことができます。皆さんも直接目にするをお勧めします。